

教育と文化

No.117

平成30年7月1日
公益財団法人
愛知教育文化振興会
岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819



子どもたちから学ぶ

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} =$$

公益財団法人愛知教育文化振興会 理事長

水野 勝通

これは、私が三十四年前に初めて中学校一年生を担当した時、最初の授業で子どもたちとともに考えた復習問題です。子どもたちの様子を知るために、私の方から「この答えは、 $\frac{5}{6}$ だよ」と投げかけてみました。

子どもたちからはいろいろな反応がありました。多くの子がすぐに正しい答えを発言してくれるものだと期待していましたが、三割程度の子どもが「そうだが、これは正しい」と言い出したのです。この反応に驚きましたが、実態把握も兼ねて、三割の子どもたちの側に立って次のような説明をしました。

「皿にミカンが二つあります。その内の一つを取ります。これは $\frac{1}{2}$ です。もう一つの皿にミカンが三つあり、その内の一つを取ります。これは $\frac{1}{3}$ です。手元には五つの内の二つがあるので、答えは $\frac{5}{6}$ になります。」

一部の子どもたちは、何かすっきりしたように、この考え方に賛成しました。曇った表情をしたのは、正しく答えを導き出せる子どもたちです。ここでやっと何人かが挙手をして、通分して計算し、答えを説明しました。その後、意見交換の時間をもちました。 $\frac{5}{6}$ を支持する子どもたちからの「なぜミカンの説明だといけないのですか」と質問に対して、「分

数のたし算は通分しないと計算できない」と厳しい口調で言う子はいましたが、なぜいけないのかを真正面から答えようとする子どもはほとんどいなかったことを記憶しています。

当時、結果を求めた進め方が中心だった自分にとって、この授業で子どもたちと考えを交わしながら授業を創るという感覚が得られました。そして、その後の授業づくりに大きく影響を与えられました。特に心に残っていることは、授業者として、子どもたち全体の意識と個々の学びを受け止め、どのように進めるか、その場で適切に判断することです。当時は感覚的につかんだことでしたが、時を経るにつれて授業づくりの重要な要素であると分かりました。

私は、これまで多くの授業を拝見する機会をいただきました。そこでよく目にしたことは、先生の意識と子どもたちの意識とのずれです。先生は指導案のように進めたいのですが、子どもたちの問題意識や興味が違うところにある場面です。このような時、先生が進めたい方向へと導いてしまったり、話題を打ち切ったりする場面を多く見ました。最初の問題も、「分数のたし算は、通分して計算すると小学校で習ったはずですよ」と言い切ってしまうえばそれで終わりです。このような場合は、なぜミカンの説明が間違っているのかは取り上げられず、先に進んでしまっています。

授業で学び合いができるように構想するのは、授業者です。個々の子どもたちの学びをしっかりとらえるところから始め、それをもとにその後の流れを構想します。子どもたちが考えや思いを出し合い、同

じところや違っているところを感じ取り、納得しながら新しい学びができるようにしていきます。このような授業を続けていけば自然に「深い学び」に行き着くのではないのでしょうか。

子どもたちが、分かること、できることに満足感を得、見方・考え方が広がる。そこで得たことを生活の中で使うことができる。こんな授業をしたいといつも考えていました。三十年以上過ぎた今でもあの時の授業が脳裏に蘇るように、私の教員としての基盤の一つを築かせてくれた一場面です。

もくじ

巻頭言

子どもたちから学ぶ 水野 勝通

三河教育への提言

三河教育への誇り 山西 正泰

三河の文化を訪ねて

一色の大提灯 嶋崎 勝

絵画コンクール

平成三十年度研究発表表校一覧

刊行物とわたし

夏休み日誌・表現の友

平成三十年度版刊行物の紹介

演習(国・社・数・理)

平成二十九年年度最優秀論文

稲垣 修一

教室の窓辺 鬼頭 知江・杉浦 創

平成三十年度学校教育ボランティアグループ助成

学校教育ボランティアグループ活動紹介

行事予定・編集後記

三河教育への提言

三河教育への誇り

豊橋市教育委員会教育長 山西正泰



海外派遣での見聞

昨年度、本市の中学生を連れて、アメリカオハイオ州のトリード市に行ってきました。そこで、日本の中学校とのあまりの違いに驚かされました。子どもたちは、登校すると、廊下にある各自のロッカーに荷物を入れて教室に向かいます。一クラスの生徒数は二十人です。ホームルームはありません。学級担任もいません。教科担任のいる教室へ各自が移動します。

「他国文化」の授業では、テーマに沿って、各自の考えを出し合いながら、教師と子どもとの対話によって授業が進

められていきます。机に腰を掛けている子がいます。立って授業を聞いている子もいます。しかし、誰もが間違いなく主体的に授業に参加しています。理科の授業では、各自が興味をもった教材を使い、研究を進めていました。日本でいう「夏休みの自由研究」を学校で行い、教師がその補助をしているという感じでした。

給食は、バイキング形式です。食べたいものをお皿に乗せてレジカウンターでチェックを受け、食堂内の席に運んで食べます。食べた分だけを電子マネーで引き落とすので、給食会計事務はありません。校長先生も実にフランクで、テイクアウト用のコーヒーマグを片手に、各教室を案内してくれました。

賛否両論あると思いますが、教室を回りながら感じたことは、アメリカ自由教育の魅力です。不登校はほとんどなく、家庭的な問題のある子どもを含め、一歩少々のことでした。

戦後の日本が高度経済成長を遂げ、世界的に高い学力を維持し続けてきた背景には、一斉教授的な指導と教師の授業力があったことは間違いありません。これをなくして、今の日本の学力水準はなかったと思います。

しかし、時代は明らかに大きく変化しました。これから先十年の教育をどのように推進していくべきかは、教育関係者の誰もが思いを馳せる問題ではないでしょうか。

学習指導要領の改訂

新しい学習指導要領が告示され、二〇二〇年度には小学校において完全実施となります。高学年では外国語（英語）が教科となり、プログラミング教育も必須となります。道徳も特別の教科となり、検定教科書も採択されました。

道徳や英語は教科になった以上、評価をしなくてはなりません。平成十七年度より英語教育推進特区として、「話す・聞く」を中心とした英語活動を進めてきた本市においても、「読む・書く」は今後の課題となっています。ここは、三河各地からの声を集め、検討を重ねた英語教材や道徳の評価表等が、使い勝手の良いものとして三河教育研究会から示されることを大いに期待したいところです。さて、英語や道徳がクローズアップさ

れています。今回の学習指導要領の最も大きな改訂点として、「前文」が新設されていることを忘れてはいけません。これは、法令制定の理念を伝えたい文部科学省の強い思いと受け止めるべきではないでしょうか。さらに、今までの指導要領が、時代に合わせ、教育内容を更新してきたのに対し、今回の改訂では、教育方法にまで、踏み込んできていることを重要視すべきであると考えます。

今回の指導要領を読み解くと、子どもの視点に立つことを原則としたうえで、「何ができるようになるか」という目標が上位に置かれ、その下に「何を学ぶか」という教育内容と、「どのように学ぶか」という教育方法が位置づけられていることがわかります。そして、教育方法のキーワードが「主体的・対話的で深い学び」となっているのです。

これらの変更を、三河の教育との関係性という視点で見直したとき、私は、今回の文部科学省の基本スタンスが、三河の教育にとって強い追い風になっているといえるのではないかと思うのです。

三河教育と指導要領の関係

「主体的」とは自ら問題意識をもって、探究的に進める学習であり、「対話的」とは、自らの調べ学習が独りよがりにならないための関わり合いと読み替えるこ

とができます。また、「深い学び」は、その結果としての自らの成長であると考えば、まさに私たち三河の教育がこれまで大事にしてきた問題解決学習そのものであることに気が付くと思います。

三河の教育は、生活教育を標榜する愛知教育大学附属岡崎小・中学校を研究先進校として、経験主義を重視してきました。これは、『生活深化の眞教育』という当時の書物に書かれている大正期の教育に源流を見ることが出来ます。この三河に根ざした「子ども中心」の考え方は、アメリカのデューイから大きな影響を受けたともいえます。

今回の学習指導要領の改訂は、この三河地方が大正期から進めてきている不易の教育方法であり、経験主義的な「問題解決学習」を全国各地において進めていくという、文部科学省のメッセージであると感じ取りたいと思います。今こそ、自信をもって、これまでの教育方法を進めていく時が来たと考えて良いのではないのでしょうか。

授業実践での子どもの姿

拙い実践ではありますが、あえて二十年前の私の実践と照らして「主体的・対話的で深い学び」について、具体場面で考えてみたいと思います。

バスの中で騒いでいる下級生が気になった子どもは、一般客に迷惑がかかっ

ているのではないかと思われる現状に問題意識をもちます。そこで、実際にバスに乗って、下級生の様子を観察したり、バスの利用者にアンケートをお願いしたりしながら、実態を調査していきます。

こうした活動の結果、浮き彫りになった実態をもとに、関わり合いがはじまります。「マナーを良くするための呼びかけが必要」、「呼びかけても変わらないから無駄」といった考えが、複雑に絡み合いつながりながら、徐々に、マナーを良くするために何かをしたいという考えに転換していきます。そして、バスの中にポスターを貼ってもらおうと、作成したポスターを持ってバス会社へ交渉に出かけたり、あるいは、チラシを作って、街中で配布したりという活動が始まります。

ここで、興味深いことが起きます。配布しているチラシに書かれた大きな文字が、「マナーを守ってください」という呼びかけから、「私たちはマナーを守ります」という宣言文に変わっていたのです。これは、当初抱いた問題が、活動の中で真に自身の問題へと変わったことから生まれた、深い学びの結果です。友達と関わり合うことで自らの考えを深め、成長した姿が、確かにそこにはありました。

問題解決学習の魅力は、子どもの学びに向かう姿が変容するところにあります。だから、問題解決学習に取り組んだ教師は、その魅力に取りつかれます。ただ、

この教育方法は、目の前の子どもが、今どのような思考にあるのか、どこに向かうとしているのかを常にとらえ続けなければなりません。そして、その変容や成長をつぶさにとらえ、評価し、個に応じた支援を考えなければならぬため、多くの時間が必要となります。

不易の教育への誇り

連日のように報道される教職員の多忙化は、子どもと向き合う時間さえとれない状況を伝えています。その原因の一つは、「子どものため」と思えば労力を厭わない私たち教職員の性質であり、子どもの指導と多忙化は「両刃の剣」となっていると言えます。だから、問題解決学習の良さを分かりながらも、そこに費やす時間を生み出すことができず、その結果、教科書を教えるというモノトーンな一斉教授に流れてしまうのでしょう。

多忙化を解消し、教員が本来行うべき授業にそのエネルギーの多くを割く術としては、二つの方策があると考えます。一つは、市の施策によるもの、もう一つは、教職員の自助努力によるものです。

市の施策となれば、当然、多くの予算が必要となります。本市が昨年度から導入した校務支援システムは、徐々に機能し始め、多忙化解消の期待の声となってきています。また、子どもの健康を守るために踏み切った部活動の朝練禁止も、

副次的に、教職員の多忙化解消の一助となっています。さらに、本年度からは、勤務時間終了後の留守番電話制度も取り入れましたので、その成果も期待されます。これらの施策は、当然各自自治体によって異なりますので、総ての市町村で同様のことが行われるわけではありません。

一方、自助努力なら、どの学校でも進められます。例えば、会議の開始時刻を守り、終了時刻を意識して要点をまとめた提案をする、また、書類等を探す無駄を省くため、机上やファイルを整理しておく等です。さらに、常々保護者への丁寧な応対を心がけ、信頼関係が築かれていれば、苦情への対応時間は減り、精神的な疲労感も軽減するでしょう。

相手の時間を尊重することで、自分の時間を生み出す。こうした平凡で当たり前の日々の積み重ねが、多忙化解消の第一歩となり、子どもに向き合う時間を生み出すことを可能とするはずなのです。

「英語や道徳が増えた」と不満を口にするだけでなく、今こそ私たち教職員自身が問題解決に動く時です。授業力、働き方に自信をもって、魅力ある大人として子どもの前に立つ。そして、多忙化解消に手を入れながら、三河部が不易の教育としてきたこの授業スタイルを、文科省の追い風に乗って、誇りをもって全国に発信するような気概をもとうではありませんか。

一 西尾 地域住民の文化と絆の結晶
一色の大きな大提灯

西尾市立幡豆小学校長 嶋崎 勝



一色のばかぢようちん

午後七時丁度、大提灯の中に約一メートルの蠟燭の火入れが行われた。やがて漆黒の夜空に、六組・十二張りの巨大な提灯群が浮かび上がった。一張りの提灯の大きさは、大きいもので全長が約十メートル、胴回りの直径が五・六メートルもある。初めて見た者は、想像を超えた大きさに言葉を失う。それぞれの提灯には、伝説や物語などを表した絵や文字が描かれ、見物人たちを古式ゆかしい時代

絵巻の世界へいざなう。参拝者の波が続々と境内に押し寄せ、見物人の声、露天商の声、神楽の笛の音、太鼓の音が入り混じって祭りの熱気をつくる。
三河湾に面する、ここ西尾市一色町一色で「三河一色大提灯まつり」が、毎年八月二十六、二十七日(二〇一九年から、第四土、日曜日に変更)に、三河一色諏訪神社で行われる。約四五〇年もの歴史をもつ祭りである。明治時代の中ごろ、知多郡あたりで「一色のばかぢようちん、一度見ぬもばか、二度見るもば

か」と言われたと伝えられている。これはそれほど提灯が大きいという意味で、諏訪神社の氏子たちは、ばかぢようちんと呼ばれるほど有名になったことを誇りとしてきた。

大提灯まつりの歴史

諏訪神社は、永祿年間(一五五八〜七〇年)に長野県の諏訪大社から分霊を勧請し、一色の諏訪大明神として祀ったことが起源と伝えられている。祭神は建御名方命である。当時のこのあたりの戸数は、二十七戸程度であったと伝えられている。

言い伝えによれば、そのころ、稲面に出穂が見られる時期になると、海魔が現れて人畜、農作物に被害を加えていた。村人たちは、神前に魔鎮の剣を供え、篝火を焚いて海魔を退散させた。以後、毎年祭りの神事として篝火を焚くようになった。これが大提灯まつりの起源と言われ、海魔の現れた洲原を「魔の浜」と呼び、これが転じて現在の「間浜」と言う地域ができたと言われる。

篝火から提灯へ

篝火を焚く神事は約百年続いたと言われる。そして、寛文年間(一六六一〜七二年)になると、篝火に替えて提灯をつくり献灯するようになった。当時は、一本の竹竿に提灯を吊す高張提灯のようなものだったと考えられている。



大提灯への火入れ

江戸時代中期になると、竹竿が丸太になり提灯も大きくなる。その上部には屋根形の覆がつけられるようになった。次に伝えられた仏壇提灯は、屋根形の覆全体に、彫刻や金色、朱色の塗りが施されるようになった。宝永(一七〇四〜一一年)・正徳(一七一一〜一六年)・享保(一七一六〜三六年)時代の一色村は、上市場組、中市場組、下市場組の三組に分かれていた。

二本柱時代の提灯

元文年間(一七三六〜四一年)・寛保年間(一七四一〜四四年)になると、提灯は次第に大きくなり、屋根形覆及び提灯の重量や風圧に耐えられる丈夫な柱が必要となった。そこで、二本の柱を立て、その間に二張りの提灯を吊すようになった。一色町千間地区の塩竈神社に払い下げられた二本柱の提灯は、全長四・六メートル、胴回りの直径二・六メートルであったとされている。

二本柱から三本柱の時代へ

文化年間(一八〇四〜一八年)・文政

年間（一八一八〜三〇年）には、二本柱から三本柱へ変わったと考えられている。組の数も現在と同様の六組になっていた。すなわち上市場組（現在の組）、中市場組（現在の組）、大宝組、下市場組（現在の宮前組）、諏訪組、間浜組である。

このころになると、組ごとに三本の柱を間隔をとって並べ、その間に巨大な提灯を二張りずつ吊して並べるようになった。そして六組十二張りの提灯は、お互いに競い合うかのようにいっそう巨大化していった。その重量に耐えられるように、提灯の造りや立て方などに様々な工夫が加えられた。

提灯の骨組みについては、それまでは竹だったものが、檜の柱にかわった。柱とは木目がまっすぐに通っているもの、ことを言い、歪みがないことや、虫がつかないで耐久性に優れている。ただし、最も小さな諏訪組の提灯だけが現在も竹の骨をつかっている。

提灯二張りとは屋根を支える大柱については、杉の木を用い、大きいものは長さ約十八メートル、太さ直径六十六センチもある。「柱立て」の日には、大柱を重機で吊り、地中に埋設した「地輪」と呼ぶ仕組みに差し込む。

また、大提灯と屋根形覆の重量は約一トンもある。これを吊り揚げる道具として「カグラサン」と呼ばれる特別な万力が使われる。

地輪の仕組み

大提灯二張りとは屋根形覆を支える強大な大柱。これを立てて固定する仕組みを「地輪」と呼び、漁船の帆柱を立てる方法をヒントに考え出されたと言われる。

帆柱の基底部にあたるところが凸柱を受けてくわえ込む部分が凹となっている。この凸凹の部分をかみ合わせて固定するといった原理を応用したものである。それぞれの提灯の地輪は地下二・五メートルの位置に埋設してある。長い間、人力で地輪を掘り出し、柱を立てていたが、現在は地輪掘りから柱立ての工程が機械化されている。

諏訪神社から参道を北に進んだところには二本の大柱が立てられる。

この大柱の大きさも縦二十メートル、横二・九メートルもあり、柱は長さ二十五メートル、周囲九十七センチの杉丸が使用されている。神が降りる目印とされる。この柱を立てるのも「地輪」が使われている。

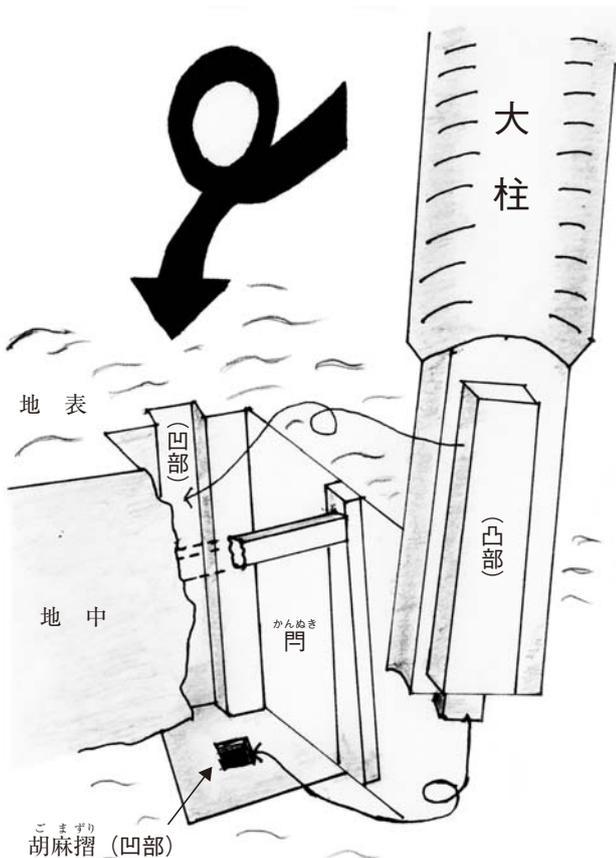
大柱は損傷や劣化が著しくなったことから二〇〇七年度より順次取り替えられている。



大幟を揚げる



大柱の基底部



地輪図解



直立した大柱群

一トンの提灯を吊り揚げる カグラサン

祭り当日の朝、各組ごとに模様の異なる法被を着た氏子たちが神社に集まる。その数は、一組三十人から五十人いる。神官のお祓い、屋根形覆の障子のはめ込みの後、屋根形覆の吊り揚げ、続いて大提灯の吊り揚げという祭りの最初のハイライトを迎える。

屋根形覆と大提灯の重さは約一トン近くある。これを吊り揚げるために使われる仕組みを氏子たちは、カグラサンと呼ぶ。万力の一つである。

祭りの指導者たちは「技能伝承者」と記された赤色の法被を着て全体の指揮をとる。世話人長が「カチ、カチ。」と鳴らす拍子木の合図、「よしよ、よしよ。」とカグラサンを巻く氏子たちの勇ましい声、「ギー、ギー。」と木の軋る音、見物人のどよめきが交錯する。

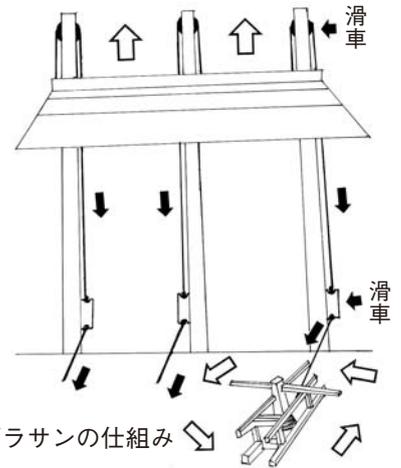
世話人長から指名された若者を乗せて、屋根形覆、続いて大提灯がゆっくりと揚がっていく。この仕組みもかつて漁師が使った地曳き網の応用だと言われる。



カグラサンを巻き屋根形覆を揚げる



下村里仙作
「静女鎌倉八幡宮舞楽図」(諏訪組提灯)



大提灯の絵と文字

十二張の提灯には、それぞれ神話や歴史を題材とした物語と文字が描かれている。絵の作者は地元出身の画家がほとんどであり、特に下村里仙(一八三〇〜九四年)は、半数の提灯を手がけている。大提灯は一九九四〜二〇〇一年に渡って全て張り替えられた。(平成の大修理)

組	絵	絵の作者	文字
上組	けいこう つくし ごせいとう 景行天皇筑紫御征討図	下村里仙	敬厥徳
	やまとたけるのみこと うすいとうげ ごちようぼう 日本武尊碓氷峠御眺望図		能感神
中組	あまのいわと 天岩戸図(天岩戸隠れ)	下村里仙	神威霊
	〃 (舞)		蒸民仰
大宝組	や た がらす 八咫鳥図	鳥居善四郎	嗚呼大哉
	きん し 金鶏図		皇宗威徳

組	絵	絵の作者	文字
宮前組	だいとうみや ごがいせん 大塔宮御凱旋図	太田愛三郎 または長四郎	敬神愛国
	〃 (武将たち)		天理人道
諏訪組	しずか 静女鎌倉八幡宮舞楽図	下村里仙	神所享
	〃 (武将たち)		維恭敬
間浜組	きび 吉備大臣帰朝祝宴図	名古屋の画工	敬聖沢既睦
	や またい 邪馬台詩図		岡崎の陵江

まとめ

大提灯まつり全体の流れを大まかにまとめると、当日まで①大提灯の土曜干し②地輪掘りと柱立て③屋根形覆を仕組む祭り一日目④屋根形覆吊り揚げ⑤大提灯吊り揚げ⑥奉納神楽⑦奉納諏訪太鼓⑧献灯祭・火入れ⑨奉納神楽祭り二日目⑩例祭⑪奉納弓道大会⑫大提灯降納となる。

一九六九年には、和紙を使った大提灯、支柱を使わず一直線に起立する三本の柱、分解可能な覆屋根が評価され、「大提灯六組十二張と柱組一式」が愛知県の民俗資料(有形民俗)文化財に指定された。

一色大提灯まつりは、準備の段階から地域住民総出で様々な段階を経て運営されている。ここで忘れてはならないのは、地輪やカグラサンなど、背景に漁師町の文化が受け継がれていること、そしてそれを誇りに思い、維持していく地域住民の強い絆の存在である。私たちは、祭りを支える見えない部分こそ重視し、これからの地域社会作りの範としていきたい。

資料提供

野本欽也 伴野義弘

参考文献

一色の大提灯祭 諏訪神社誌
ふるさと散歩道 絵本大ちゃん
広報にしお いっしきふれあい広報

新しい事業です

啓発用のポスターを6月中に各小学校に配布しました。
ぜひ、学級、学校単位で応募ください。

絵画コンクール

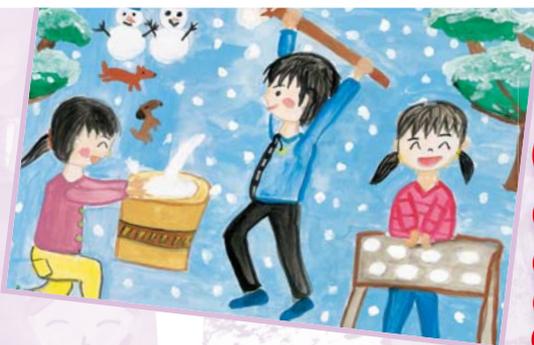
みかわ



発見

「まつり」 「はなわや」 「くらし」

を描くの



応募期間

「春・夏の部」

平成30年

9月7日(金)～9月14日(金)

「秋・冬の部」

平成31年

1月11日(金)～1月18日(金)

趣 旨 子どもたちが、絵画による表現に関心をもち、技能を向上させるとともに感性を陶冶する機会とします。

主 催 公益財団法人愛知教育文化振興会

推 薦 三河小中学校長会

三河小中学校PTA連絡協議会

応募先

公益財団法人愛知教育文化振興会 「絵画コンクール係」

〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東 170 番地 1

TEL:0564-51-4819 <http://www.bunsin.org>





刊行物とわたし

刊行物「夏休み日誌」とわたし

豊橋市立多米小学校 藤下 航太郎

(H29・4年)



「夏といえば」と考えたときに、虫とりと花火と夜店が頭の中になうかんできました。何を描こうか悩んだときに、虫の図鑑を見ていたら、クワガタムシのけんかしている写真を見つきました。夏によく見られる様子だと思い、虫とりについて描こうと決めました。クワガタムシがぼくの顔より大きく描け、迫力が出てとてもよかったです。この絵で気に入っている所は、雲と木と石です。クワガタムシの大きさとバランスをとることも考えながら、本物に見えるように工夫して描けてよかったです。

「夏」といえば、青い空に白い雲、緑の葉が輝いて生い茂っている…。そして何といってもクワガタムシと。そんな光景を思い浮かべますが、ここ豊橋市の多米町はまさに、そのような自然豊かなところです。この絵から夏らしさがぐんぐん伝わってくるのは、そんな環境の中に航太郎くんがいるからではないでしょうか。クワガタムシを大きく描き、昆虫の王様としての存在感が出ています。よく観察をして、ひとつひとつのパーツを細かく描いたことで、さら

に見る人を引き付ける作品になったと思います。人物についても、顔の表情や網を持つ手などがいいねいに描かれ、
「このクワガタを取るぞっ。」
という気持ちが感じられて、すばらしいと思います。
作品全体としては、さわやかな色づかいで、夏の風が吹き抜けていくような印象を受けます。航太郎くんの「夏」に対する思いが、十分に表現できている作品に仕上がりました。
(指導者 多米小 伊藤真澄)

刊行物「表現の友」とわたし

いま求められている「表現力」のために

知立市立猿渡小学校

表現の友編集委員長 三浦 啓作



平成二十九年三月に公示された「新学習指導要領」では、これからの予測困難な時代を生きる子どもたちに、その「生きる力」を育むため、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の資質・能力の三つの柱で再整理しています。愛知教育文化振興会からは、中学生の表現力育成のための刊行物「表現の友」が発刊されています。

その内容は、説明文、案内文、レポート、鑑賞文、ガイドブック、物語、手紙、意見文、旅行記、俳句、批評文、主張作文、読書感想文、詩、生活作文、独楽吟、スピーチ、ディスカッション、ポスターセッション、パネルディスカッション、プレゼンテーション、ブレイクストーリーミングと、多種多様な文種や言語活動で網羅されており、教科書にも準拠して、基本的な表現力を習得できるものになっています。

またその構成は、各学年とも
一 ささまざまな表現を楽しもう
二 生き方を見つめよう
三 表現活動を充実させよう
の三部で構成されており、単なる知識及び技能の習得にとどまらず、自らの

生活を見つめたり、国語科として学んだ知識・技能を使って、他教科・領域での活用や探究に用いたりできるような工夫もなされています。

前述の「新学習指導要領」では、国語科は言語に関する基礎的基本的な力を学ばせる基盤教科であると位置づけられています。その中で述べられている「思考・判断・表現力」育成には、とりわけ資質・能力としての汎用的技能やスキルが求められています。が、「表現の友」は、これらも視野に入れた編集になっていると思います。

編集委員のメンバーは、各市町の国語科精鋭の先生方です。編集委員会は、毎回白熱した検討がなされており、編集委員長としても、誇りにできる内容であると自負しています。

今後も、「主体的・対話的で深い学び」のための表現力育成に資する刊行物になるよう、努力してまいります。

力してまいります。



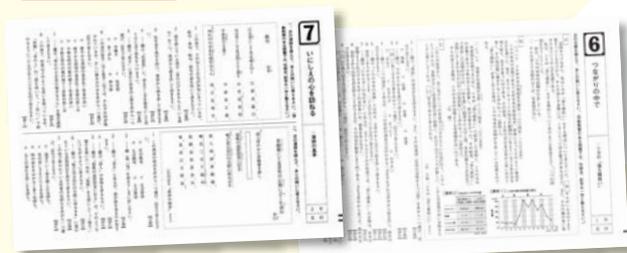
特長

- 各教科の基礎的・基本的内容を定着させる
- 活用力・応用力の育成を目指し、各教科で重視する力量（書く力、資料活用力、思考力・判断力）をのばす
- 観点別評価に配慮し、生徒の学習の定着度をはかる
- 生徒の自学自習ができる

中学校の演習類

国語演習

- A4判 1～3年 各10枚
- 頒価 各学年160円



編集委員のコメント

国語の領域を押さえ、要点を絞った授業内容の振り返りと単元の理解度が確認できるように編集しています。授業の振り返りの小テストとして、また定期考査の学習教材として活用していただけることを期待します。（蒲郡・教諭）



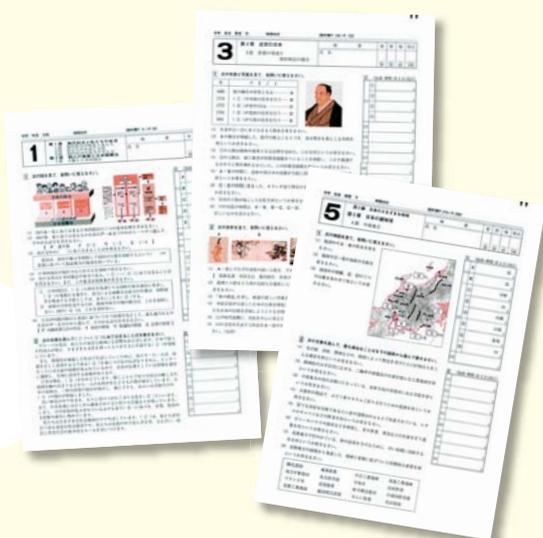
社会演習

- A4判（両面刷）
- 頒価
- 地理 上下各8枚 地理 各185円
- 歴史 上4枚・中6枚・下3枚 歴史 各125円
- 公民 9枚 公民 185円



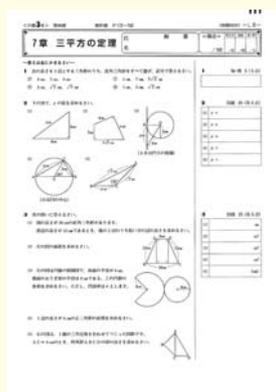
編集委員のコメント

生徒が「わかった・できた」という達成感が味わえるような問題づくりを心がけています。表面は基礎・基本の問題を中心に重要語句を覚えられる問題を、裏面は応用問題を中心に資料を読み取ったり記述問題を取り入れたりして編集しています。（刈谷・教諭）



数学演習

- S判B5判 1年23枚
- （片面刷） 2年21枚
- 3年24枚
- L判B4判 1年9枚
- （両面刷） 2年8枚
- 3年9枚
- 頒価 各学年255円



編集委員のコメント

教師にとって、生徒にとって使いやすい刊行物を目指しています。S判は学習の基本を確かめることをねらいとし、L判は各単元の評価に役立つように編集しています。この演習を使うことで、数学に対する意欲が高まり、数学を解く楽しさを実感してほしいと願っています。（豊田・教諭）



理科演習

- A4判 1～3年 各20枚
- 頒価 各学年285円

編集委員のコメント

「テスト対策には、まず理科演習を！」中学の理科教師としてずっと使い続け、今も頼りにしています。短い問題文、限られた問題数の中で、重要なポイントをしっかりと収め、生徒にも教師にもわかりやすいように編集しています。（みよし・教諭）



思いやイメージを豊かに表現し、

つくりだす喜びを実感する子どももの育成

～工作に表す活動の実践を通して～

西尾市立一色中学校 教諭 稲垣 修 一



一 はじめに

本研究は、小学校高学年における工作に表す活動を通して、「こうしたい」という思いやイメージを主体的に表現したり、「これいいね」と互いのよさや表し方の工夫を認め合ったりする中で、自己表現できた喜びを味わう子どもの姿を目ざして実践したものである。高学年になると情報端末を利用する機会が増える一方、手や体を働かせてものをつくる機会は減少するなど、生活環境が大きく変化する。このことは、担任をした学級の子どもたちにも当てはまる。他方で、「明日の図工はどんなことをするの?」と尋ねてきたり、時間を忘れて夢中でつ

くったりする姿に接すると、「つくることが好きなんだな」と実感し、嬉しくなる。このような子どもたちに対して、自発的に工夫・改善がしやすく、完成後も新たな活動を展開できる工作活動のよさをいかした題材を開発し、創造する楽しさや仲間と共につくりだすよさを実感できることをねらい、実践に取り組んだ。

二 研究の概要

(一) 目ざす子ども像

- ・自分の思いやイメージの実現に向けて、自発的に表し方を工夫・改善してつくることができる子ども
- ・自他の表し方のよさや工夫を感じ取り、自分の思いやイメージが実現できた喜びを実感することができる子ども

(二) 本研究の経緯

◇一年次は、五年生を対象に、十五センチ角の板上にビー玉が転がるコースをつくる「コロコロ遊園地へようこそ!」を題材として、次の手だてを講じて進めた。

①思いやイメージを広げる場の設定

②相互鑑賞活動の場の設定

③下級生や保育園児と交流する場の設定

出合いの場面で、教師自作の参考作品を提示して実際にビー玉を転がして遊ぶことで、題材への興味やビー玉が楽しく転がる動きへの関心を高めることができた。また、「遊園地」から思い浮かぶ言葉をイメージマップに表すことで、乗り物の動きのイメージへと思いを広げたりした。つくる過程では、工夫点とアドバイスを二色の付箋紙に書いて交換し合うことで、新たな材料の表し方に気づき、それまでとは異なるビー玉の動きを実現することにつながった。一人四枚のコースをつくり、様々な組み合わせを試しながら、ペア学級の三年生や保育園の年長児と一緒に遊ぶことで、活動の満足感を一層高めることになった。

アニメーションをつくる場面では、複数のおもちゃを組み合わせたストーリー性のある作品を提示することで、表現の過程において、思いやイメージを新たに発展させながらつくることができた。撮影時に、デジカメを共有しながら仲間と共同でつくる活動の場を設けたことで、互いの作品やアイデアを交流しながら、表現したいイメージを発展させ、よりよい表現を実現できた。一年生への鑑賞会では、相手に楽しんでもらえたことで自らの表現のよさを再確認した。一方、三年次に向けて、自分の思いを実現するために、子ども自身が必要感をもって仲間とかわり合う授業を構想し、個人での活動と仲間との活動を互いに充実させることが、資質・能力の向上につながると感じた。

(三) 研究の内容◇三年次

◇二年次は、六年生を対象に、割りピンおもちゃをデジカメで撮影してアニメーション化する「動き出すストーリー」を題材として、次の手だてを講じて進めた。

①製作段階に応じた参考作品の提示

②共同活動の場の設定

③ペア学級の児童との鑑賞会の場の設定

出合いの場面で、シンプルなたつくりの参考作品を提示して静止画と動画と比較鑑賞したり、提示後に気づいたことを意見交流したりしたことで、動きや形など作品の造形的な特徴や面白さを自ら捉えることができた。また、割りピンおもちゃをつくる場面では、より複雑な動きを生みだす仕組みに着目できる作品を、

五年生を対象に、「仲間との協働追究を通して、思いやイメージを豊かに表現し、つくりだす喜びを実感する子どもの育成」をねらい、ボールが転がる動きに着目して、ペットボトルを用いた巨大なコースターをグループの仲間と共同でつくる「巨大ペットボトルコースターでGO!」を題材として、主に次のような手だてを講じて研究を進めた。

手だて① 試しの活動や材料体験の場の設定により、動きや活動への関心を高める

始めに、空カプセル(以下、ボール)で何ができるか試しの活動を行うことで、「はねたり回転したりする」「坂道は速

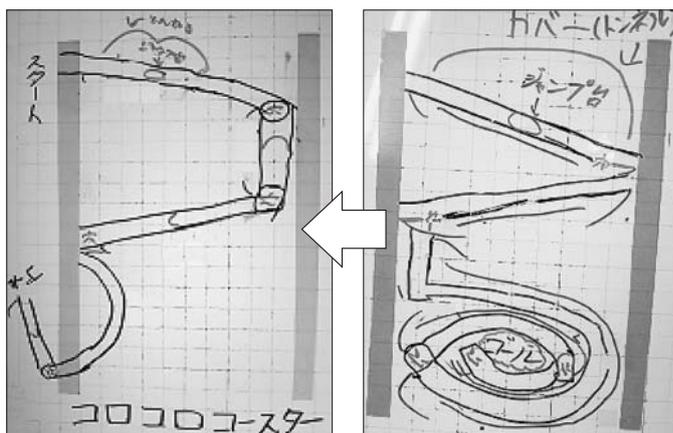
く転がる」「ゆっくり転がすといろんな方向に行く」など、転がる動きの特徴を実感的に理解した。次に、二リットル容器を半分で切断した材料を配布し、グループで思い思いにつなげて遊ぶ活動に移った。児童Aは仲間と次々に長さを延長し、ロッカーを利用した大きな坂道をつくって何度も転がした。ボールの動きに着目した後材料に触れる時間を確保したことで、コースの形を工夫してボールの動きを変化させることへの関心が高まった。一方で、「三人でやることが高らばらになっちゃった。」と書かれた児童Aの振り返りを受け、共同して表現するためには、互いのイメージを共有できる意見交流の場を設定するなどの教師支援の必要を感じた。



<思い思いに材料体験>

手だて② ホワイトボードを用いた意見交流により、表現の思いやイメージをもつ

立体的な巨大コースターの参考作品で遊んだ後、互いの思いや考えを伝え合い



<考える場としてのホワイトボード>

ながら、グループの構想をホワイトボードに表した。児童Aのグループは、「最初は勢いをつけるために坂道にしよう。」と考えると共に、「ウォータースライダーみたいにくるくる回転してゴールさせよう。」とボールが楽しく転がるような仕組みを発想した。ホワイトボードを使って話し合うことで、考えを伝える機会を保障したり、絵や図に表すことでイメージを共有したりすることにつながった。その後、コースターをつくり進めると、構想した通りにはボールが転がらないことに気づいた。そこで、もう一度ホワイトボードで構想し直してみたらどうかと声をかけた。児童Aのグループは話し合う中で、直線コースを途中に付け加

えたり、ゴール部分の回転コースの形を修正したりして、実際に材料を動かしながらアイデアを練り直した。児童Aは、仲間と材料をつなぎ合わせ、落とし穴を開けて前後のコースにつながるように工夫し、ボールが転がりやすくするために斜めに連結させ、巨大コースター全体の形が出来上がった。

手だて③ 園児との交流の場の設定により、活動の満足感やつくりだす喜びを味わう

「自分たちで遊ぶだけじゃもったいないから、誰か招待してみない？」と投げかけると、体験入学でも一緒に活動する保育園の年長児を多くの子が挙げた。交流相手が決まり、「どうすれば年長児に楽しんでもらえるか」という第三者の視点を取り入れた話し合いを行った。児童Aのグループは、パネルの壁が何もなくて寂しいことから、「クリスマスイラストをたくさん描いて、壁に貼ったらどう？」「テープで貼って、ゴールしたらプレゼントしてあげよう。」と考え、休み時間も図工室に通い、「園児に喜んで



<園児との交流会>

もらおうコースターにしたい」という思いの実現に向けて、自ら動きだす姿が見られた。交流会では、園児のボールがゴールすると、笑顔で拍手しながら、一人ずつに絵カードをプレゼントした。活動後の振り返りからは、園児に喜んでもらった満足感と、仲間と共に試行錯誤する中で思いやイメージを実現できた喜びが伝わる。

苦労したしかけや絵カードも喜んでいたので、作ってよかったです。予想したコースターよりすばらしいのができました。穴をあける時、「穴をあけるだけだと、ボールがいきおいよく行ってしまうので、逆に落ちる可能性があるからどうしよう？」と考えて、いろいろ試したら最後にうまくいったことがありました。この授業で、試してやってみてできなかったらまた考えて挑戦することでよいのができると学びました。

<題材後の児童Aの振り返り>

三 おわりに

三年間の研究実践を通して、子どもが魅力を感じる題材設定や出会いの場面の工夫、子ども自身の必要感に基づいたかわり合う活動の設定、つくったもので遊び合う鑑賞遊びの場の設定などにより、自分の思いを実現する中でつくりだす喜びを実感する子どもの姿を見ることができた。今後も、「やってみたらできたよ。」「みんなをやったから、こんなことができたよ。」というつくりだす喜びを味わえる授業の実践を目ざしていきたい。

今日も笑顔で

豊川市立桜木小学校

鬼頭 知江

「おはよう、〇〇さん、今日も元気なあいさつだね。」

あいさつと名前とプラス一言。それは、初任のときから三年間、私が一番大事にしている日課である。必ずクラスの全員と玄関か教室であいさつをする。たった一言だけど、私も子どもも、一日をハッピーに、笑顔でスタートさせる大事な時間だと思って取り組んできた。

五年生を担任していたとき、長い前髪とマスクで顔を隠し、フードをかぶる女の子がいた。あいさつをしても、私の前を素通りする。授業中



も調子が悪くなり、退席することが増えてきた。担任としては、気にかかる。すぐに、話を聞いたほうがいいと思った。

しかし、話を聞くとしても、「相談事はない、何もない。」

と言い張った。そこで、あいさつのことだけは、会話をしようと心がけた。

「〇〇さん、おはよう。今日の朝ごはんは何食べた？」

「〇〇さん、おはよう、昨日、係の仕事をしてくれてありがとうね。」

毎日あいさつするうちに、彼女のほうから、

「先生、今日の朝、家族のことでむかついてさ。」「友達とうまくいっていない。」

悩みを伝えてくれるようになった。日記にも、びっしり悩みを書いてくれるようになった。少しずつ心を開いてくれるような気がした。

「短所は、マイナス思考、やっても無意味、いつもそう考えていたけれど、プラス思考に考えていこうと思っています。」

彼女が前向きに話をしてくれたときの笑顔が今でも忘れられない。

今年の春、中学校の制服を着て、髪をばつさり切つて明るくなった彼女が、

「鬼頭先生、おはようございます。」

自分からあいさつをしてくれた。先生になつてよかった。彼女に出会えてよかった。そう思える瞬間だった。だいたいじょうぶ。きつと幸せになれる。今日も元気に。今日も笑顔で。先生はずっとあなたのことを応援しているよ。という気持ちを含めて、

「おはよう、〇〇さん。」

と私は言った。くるりと向きを変えて、中学校に向かう後ろ姿が力強い。これからは、彼女のように将来への一歩を歩むすべての子どもたちのために、一日のスタートを笑顔で迎えていきたい。

忘れられない笑顔

碧南市立東中学校

杉浦 創

「俺、歌うの嫌いだもん。」

合唱コンクールの練習を始めようといるとき、思わずAが漏らした言葉である。

Aは明るく、自分の気持ちに素直な子。好きなことには前向きに取り組めるが、嫌いなことはなかなかやろうとしない。

「合唱コンクール、嫌だなあ。」

Aは誰に言うわけでもなく、独り言をつぶやいていた。Aは、歌うことを特に苦手としていた。

いざ練習が始まると、みんなが一生懸命に声を出している中、Aは口をほとんど動かさず、ただ立っているだけのように見えた。Aに声をかけても、うつむいてしまい、歌おうとしない。何とかしなければと思いい、歌詞の意味をクラスみんな考えてみることにした。少しでもAが前向きになれるかもしれないと考えた。

リーダーを中心に、クラスメイトたちは歌詞の言葉一つ一つから感じたことや、歌詞をどう捉えたのかを思い思いに発表していった。ああでもないこうでもないと言語合いながら、歌詞の意味することへと迫っていった。その様子をAはじつと見ていた。すると、突然Aが、

「俺は、この部分、いいなって思う。」

と、発言した。Aが指差した歌詞には『僕らの奇跡を 今 起こしてみせる』と書いてあった。Aはさらに、

「金賞が取れたら、それって奇跡じゃん。奇跡、起こしてみたいなって思う。」

と、続けて言った。クラスメイトの語り合いを聞いているうちに、Aの中で、心の変化があったのだろう。みんなもちょっと驚いたような顔をしていたが、Aが合唱コンクールに対して前向きな発言をしたことを喜んでいた。

本番当日、クラス全員で円陣を組み、気合を入れてステージに登った。一年一組の生徒たちは、これまでの練習で仕上げてきた歌声を体育館中に響かせていた。Aも口を開けてしっかりと歌っているのが確認できた。あんなに嫌がっていた姿を思い出すと、Aの大きな成長を感じた。結果発表。一組の曲が流れた瞬間、クラス全員が飛び上がって喜んだ。Aも隣の生徒と笑顔でハイタッチをしていた。

「俺の言った通り金賞だね。」

と、おどけて話すAの顔は、達成感を得たすがすがしい表情をしていた。あの笑顔は一生忘れられない。

教室の窓辺



平成三十年度 学校教育ボランティアグループ助成

読書活動グループ助成対象団体

〔地区〕	〔団体の名称〕	〔代表者〕	〔主な活動場所〕
附 属	愛知教育大学附属岡崎小学校	山田 都	愛知教育大学附属岡崎小学校
岡 崎	おはなしたまでばこ	佐野 朋子	岡崎小学校
岡 崎	きらら絵本館	石川 里美	岡崎小学校
岡 崎	夏山よみよみたい	松村 美紀	夏山小学校
岡 崎	おはなしのへや	大山 恵子	梅園小学校
碧 南	おはなしの森クラブ	山田 和子	鷲塚小学校
刈 谷	亀城小学校図書館ボランティア	廣瀬 江美	亀城小学校
刈 谷	絵本サークルこんにち話	加藤あき子	双葉小学校
豊 田	おはなしでてこい	山中 正三	石畳小学校
豊 田	とんからりん	田中 昌子	平井小学校
豊 田	お話ポケット	田中 郁恵	御作小学校
豊 田	幸海小読み語りボランティア	蟹 真弓	幸海小学校
豊 田	ハートウォーミング	安田 千景	松平中学校
豊 田	九久平小学校読み聞かせボランティア「ちこゆりの会」	飯尾 恵	九久平小学校
安 城	読み聞かせボランティア「おはなし宅急便」	大見 綾美	新田小学校
安 城	お話の会	植田 理和	丈山小学校
安 城	読み聞かせクラブ「ありす」・ストーリーテリング	五十嵐真智子	二本木小学校
西 尾	中畑小学校図書ボランティア・ブックさん	野村 真弓	二本木小学校
西 尾	平坂小学校図書ボランティア	中根 由美	中畑小学校
西 尾	米津小・図書ボランティア	中村 智子	平坂小学校
知 立	知立南小学校ボランティア「南の会」読み聞かせグループ	新城亜希子	米津小学校
高 浜	話し・輪・和の会	小西 正和	知立南小学校
みよし	ちいさな にわ	新実 貴子	吉浜小学校
幸 田	学校支援ボランティア(読み聞かせボランティア)	杉浦良央子	三吉小学校
豊 橋	津田小学校図書ボランティア	石塚 茜	三吉小学校
豊 橋	ぐるんぱ	長谷川三重子	中央小学校
豊 橋	松葉おはなし会	佐藤 希予	津田小学校
豊 橋	図書ボランティア「ぼけつとさん」	大木彩友美	石巻小学校
豊 橋	図書ボランティア「ぼけつとさん」	内藤 純子	松葉小学校
山 本	桜木小学校図書ボランティア	池内 志規	清水小学校
山 本	由美	山本 由美	桜木小学校

〔地区〕	〔団体の名称〕	〔代表者〕	〔主な活動場所〕
豊 川	豊川市立一宮東部小学校読み聞かせボランティア	足木 京子	一宮東部小学校
豊 川	金屋小学校読み聞かせボランティア	中尾 設子	金屋小学校
蒲 郡	赤い小鳥・杉江恵子さん	安藤 節子	蒲郡南部小学校
蒲 郡	しずさと図書ボランティア	杉江 恵子	蒲郡南部小学校
新 城	夢風船	石川 祐子	蒲郡北部小学校
新 城	やまびこ	高山 光子	千郷小学校
田 原	読み聞かせの会	大中 秀香	黄柳川小学校
田 原	OHANA倶楽部	立石早由里	田原東部小学校
北 設 楽	ふれあい会	廣野 圭子	赤羽根小学校
北 設 楽	おひさまの会	松井 泰治	清嶺小学校
		平松ゆかり	東栄小学校

読書活動以外のグループ助成対象団体

附 属	愛知教育大学 人形劇サークル じゃんけんぼん(人形劇公演)	青木 結唯	愛知教育大学附属特別支援学校
岡 崎	スクールサポートボランティア ふくふくタイム(昔遊び指導)	織田 義隆	福岡小学校
岡 崎	竜海中おやじの会(環境整備・夜間パトロール)	畑中 伸彦	竜海中学校・校区内
碧 南	日本を美しくする会	杉浦三代枝	南中学校
刈 谷	小高原小学校 英語ボランティア(外国語活動)	松元香保里	小高原小学校
豊 田	さわやかさん(校内環境整備)	尾崎たい子	藤岡南中学校・周辺
豊 田	若園中学校 図書館ボランティア(掲示物の作成)	足立富士子	若園中学校
安 城	篠目中掲示ボランティア(掲示物制作)	深谷 英子	篠目中学校
西 尾	オアシス ボランティア(講座の講師)	辻村 明美	西尾中学校
知 立	来小はぐくみ隊(登下校見守り・防犯活動・校内巡視)	竹本 善明	来迎寺小学校区通学路
高 浜	野菜の先生(栽培活動)	中根 忠義	高浜小学校
みよし	南部小学校三世代交流会地域ボランティア(創作活動エッセイなどの講師)	井俣亜由美	南部小・明越会館・南部コミュニティ
幸 田	深溝小学校なす講師(なす栽培活動)	三浦 義基	深溝小学校
豊 橋	おやじの会(バザー・運動会の手伝い)	高橋 知也	豊小学校
豊 橋	一人一鉢 菊づくり(一人一鉢菊づくり指導)	前田 政俊	谷川小学校
豊 川	小東おやじの会(環境整備・公園作業・防災訓練)	森川 友晴	小坂井東小学校・とんぼ公園
蒲 郡	蒲郡中学校校区相撲愛好会(相撲部指導)	大場富士弥	蒲郡中学校
新 城	お田植えボランティア(米作り・お田植え踊り指導)	山内一三美	東郷東小学校
田 原	ロボ・テクノ田原(ロボット製作と制御)	山本 克仁	田原中学校
北 設 楽	田峯盆踊り保存会(盆踊り指導)	七原 明朗	田峯小学校・田峯生活改善センター

学校教育ボランティアグループ活動紹介

明るく楽しい

「おやじ」の活動

豊田市立根川小学校 おやじの会

この会は、PTA活動への積極的な父親の参加と、男性を中心とした地域内親睦を図ることを目的に、平成二十年度に設立されました。

活動事業は次の四つです。

- ・ おやじの奉仕活動
- ・ おやじの遊び
- ・ おやじの勉強
- ・ おやじの活躍

「おやじの奉仕活動」として、毎年夏休みに行うPTA奉仕作業への参加があります。また近隣の根川こども園の遊具の塗装も行っています。PTA奉仕活動ではPTAが行う除草作業に合わせ、側溝掃除をしたり、校地外側の除草作業をしたりします。



「おやじの遊び」最大の活動は、毎年九月の土日に行う「学校に泊まる会」で、学校の体育館に親子で寝泊まりする体験活動を企画・運営しています。この企画

には災害時の避難行動の模擬体験の意味もあります。

「学校に泊まる会」は「おやじの活躍」の見せ場です。割りばし鉄砲による的当てやミニゲームなど、おやじの発想を生かした企画を楽しみます。おやじの知恵と力を発揮するのが流しそうめんです。水路のための竹の切り出しや竹割り、節取りなど、おやじ達が力を発揮し準備します。竹で作られた長い水路を流れるそうめんを、参加した子どもたちは、大喜びで食べます。昨年は雨のため、体育館への渡りを使った流しそうめんでしたが、おやじの発想力で見事に水路を設置し実施することができました。夜には卒業生の中学生や高校生がお化け役となり、肝試しを行います。子どもたちが就寝した後は「おやじの勉強」としてのおやじだけの親睦会を行い、父親として学校にどのようにかかわっていくのかなどを話し合います。



学校教育へのおやじの積極的な参加を目標に、今後はさらに現役おやじの会員を増やし、明るく楽しく活動できるようにします。

(加藤直人)

行事予定(七月～十二月)

七月 一日(日)

「教育と文化」一一七号発行

七月十一日(水)

個人研究助成・団体研究助成・学校教育ボランティア助成交付開始

七月十二日(木)

夏休み日誌使用報告締切

八月三十一日(金)

個人研究助成(三年次) 研究報告締切

九月 六日(木)

算数の友(下) 使用報告締切

九月十一日(火)～十三日(木)

かきぞめ手本・冬休み日誌注文

九月十四日(金)

第二回理事会

十月 十日(木)

第二回文振郡市正副代表者会

十月十七日(水)

第二回文振郡市事務担当者会

十月下旬

刊行物都市説明会開始

十月三十一日(木)

正誤調査員報告締切

十一月 一日(木)

「教育と文化」一一八号発行

十一月三十日(金)

「刊行物モニター調査」編集委員会の「反省・申し送り事項」報告締切

編集後記

◇新しい出会いによる緊張も解け、自分らしさを発揮されていることと思います。一一七号に玉稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

◇巻頭言の水野様、提言の山西様からは、授業において、「主体的・対話的で深い学び」を生み出す具体的なヒントをご示唆いただきました。また三河の文化では、一色の大提灯を取り上げました。漁師の心意気を受け継ぐ、地域の人たちの熱い結束が伝わってきます。図らずも最優秀論文も一色からの力強いメッセージとなりました。

◇ネイチャウオツチングでは、定員三十組の募集に対して五四七組もの応募がありました。体験的活動への関心の高さを感じます。抽選により参加者を決めさせていただきます。

◇本年度も読者の皆様の元気を後押しできる誌面づくりに努力してまいります。

(総務部)

〔平成三十年度の業務組織〕

顧問	青木 宏氏
理事長	水野 勝通
副理事長	水藤 彰啓
常務理事	鈴木 栄二・河合 伸樹
事務次長(兼総務部長)	犬塚 尊夫
事務次長(兼業務部長)	福井 基明
総務部	藤嶋 力央・白井 博司
編集部	河合 智仁・伊藤 雅朗
業務部	酒井 敬・本多麻紀子
	深津 理絵
経理部	金原 宏・天野 広子
	牧 富代
事務員	鈴木 千明